



ひまわり新聞

介護老人保健施設 ハートランド・ぐらんぱぐらんま広報企画班
〒192-0152 八王子市美山町 1074 TEL 042 (652) 2155

No.
32

発行責任者
平川博之

「在宅療養支援老健」になりました



介護老人保健施設（老健）は、ご入所中の方が、在宅に戻るという目的を持ってリハビリテーション等に取り組んでいただく施設です。

平成 24 年 4 月から、老健の基準が変わり、老健はご利用者の在宅復帰や在宅での生活を支援する機能をより一層強化することが求められました。

ぐらんぱぐらんまでは、これまで以上にご利用者の在宅復帰支援に取り組み、平成 24 年 11 月から「在宅療養支援老健」としての基準をクリアすることができました。

今後さらに超高齢社会が進むことを念頭に、地域の在宅生活を支援する拠点として、ぐらんぱぐらんまを必要としている多くの方々にご利用いただける施設にして参りたいと思っています。

事務課 小山田晋也



在宅復帰療養支援施設承認に向けて 具体的に取り組んだこと

平成 24 年 4 月の介護報酬改定で、老健施設は「在宅復帰・在宅支援施設」としての役割が強化されることになりました。細かな条件はありますが、毎月退所される方のうち 3 割以上が在宅復帰することで在宅復帰療養支援施設として、ぐらんぱぐらんまは平成 24 年 11 月から承認されています。

相談課としては、まず、在宅復帰を目指す方のご自宅を入所前後に訪問し、ご自宅の環境を確認。施設でどのようなケアや訓練が必要かを検討し、日々の生活、リハビリに活かします。在宅のケアマネジャー等とも連携し、必要に応じて退所前にもご自宅を訪問。退所前に関係者でカンファレンスを開催し、ご自宅での生活に向けて必要なサービス等を決めていきます。このようにして、入所開始時点から自宅への退所へ向けて準備を進めていきます。

今後も、ぐらんぱぐらんまはご利用者の在宅復帰を支援していきます。

支援相談課 主任 武井純一



リハビリテーション科では、ご利用者が安心してご自宅へ戻れるよう、次のような支援を強化して実施しています。

ご自宅訪問

家屋や周辺環境を確認させていただき、ご自宅での生活をより具体的に想定したりリハビリテーションを実施できるよう努めています（例えば、在宅生活で必要となる動作の練習、住宅改修や福祉用具の提案等）。また、介護・看護スタッフとも密に連携を取りながら、施設での生活も、想定される在宅生活に出来るだけ近い形で過ごしていただけるよう生活リハビリや環境設定等を行なっています。



在宅復帰後の支援

通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、短期入所等のサービスを目的に合わせて提供できるよう努めており、ご自宅に戻られた後も末永くサポートさせていただきたいと考えています。

リハビリテーション科 岡本望





介護スタッフの取り組みとしては、基本的にご本人のできる範囲が、広がるようにすることや、他の職種とのコミュニケーションを今まで以上に密にして取り組んでいます。「ご本人はどれくらいの事ができるのか」はリハビリ科と、「ご家族はどのような状況を望んでいるのか」は相談課と、常に情報交換を行うように心がけています。

また、入所前後や退所前後の在宅訪問に、積極的に同

行するようにしています。主に確認するのは、ご自宅の環境です。ベッドの乗り降りする向きは？トイレまでの距離は？手すりなどの移動環境は？外への出入りの手段は？など、様々なことをチェックし、施設での生活やリハビリに情報を活用していきます。

これらの取り組みが少しでもご自宅に戻る皆さんの力になればと願っています。

ケアサービス科 主任 林良信



看護では、在宅復帰に向けて服薬の自己管理が出来る様に支援を行っています。

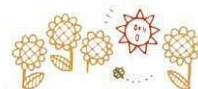
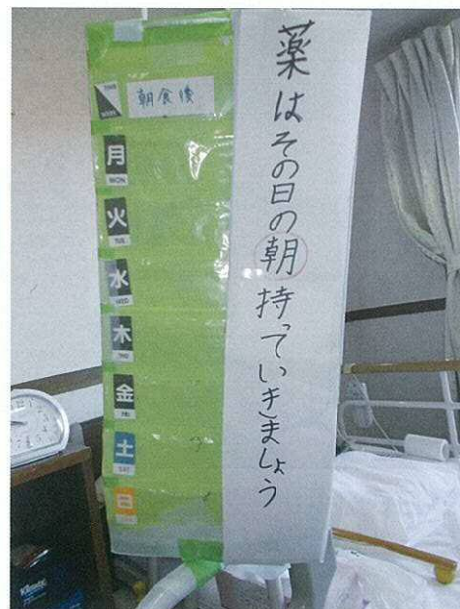
まず、サービスステーションに薬を取りに来ていただく事から始めて、食堂に向かう前に忘れずに持って行く事が出来るまで続けます。

次に一日分から始めて三日分と徐々に日数を増やしていきながら、居室にて自己管理をして頂きます。

市販の薬ケースを利用される方もいらっしゃいますが、写真の様に月曜日～日曜日を明記した、つり状のケースを作成し食事時にご本人がケースから薬を取り出して食堂に持参します。

職員が、正しく服薬されているか否かをチェックしています。毎食後の薬の他に食前薬や一週間に一度のみ服用する薬、また毎朝貼り薬がある方もいらっしゃいます。その他、点眼薬、軟膏薬等もあり、飲み忘れやダブリ、朝夕の飲み違い等がない様、ご家族やケアワーカーの協力が必要です。

在宅復帰前に繰り返し説明を行い正しく服薬が出来るよう取り組んでいます。

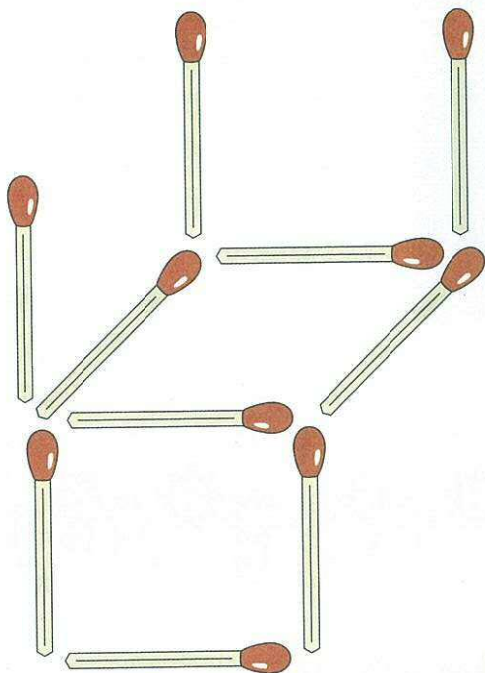


看護 保坂五津子

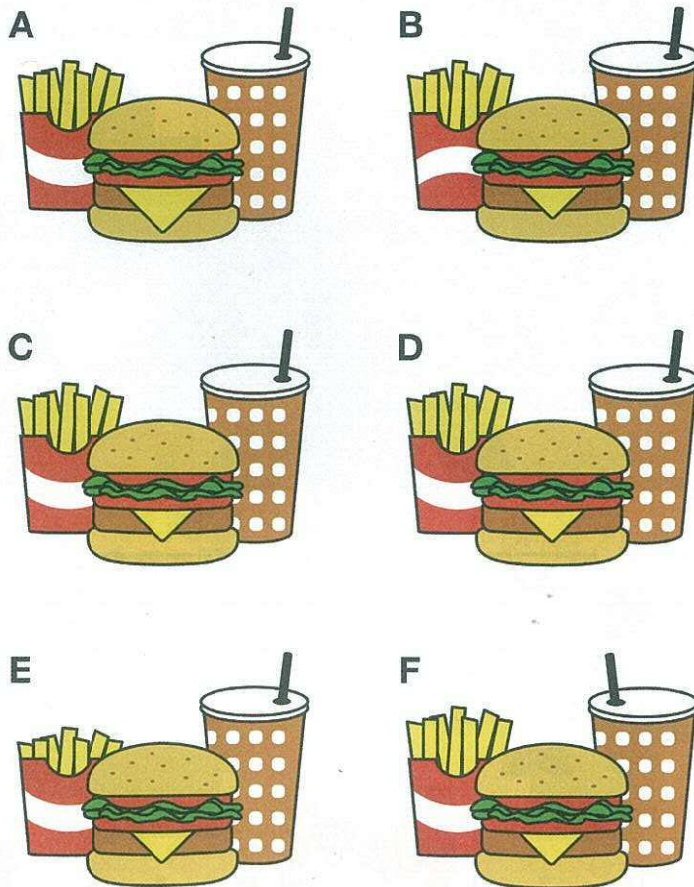
脳トレ!!!

① イスが逆さまになっています。

同じイスを普通に戻すにはマッチ棒を何本動かせばいいでしょう。



② 同じ組み合わせの絵はどれとどれでしょう。



お寿司を食べよう!!

ぐらんぱぐらんまでは年二回（2 月・11 月）、4 丁目食堂で寿司レストランを開催しています。栄養科やボランティアの方々と協力し、ご利用者に好きなお寿司やお刺身の盛り合わせを、バイキング形式で楽しんで頂いています。

普段では食べる機会が少ないお寿司を、「美味しい、美味しい」と涙を流したり、「10 貫以上食べたよ!」と笑顔で話されたりと喜ばれていました。

これからも、ご利用者が楽しく参加して頂ける様な行事をたくさん企画したいと思います。

ケアサービス科 古家早苗

編集後記

今回は様々な支援活動の紹介をさせて頂きました。寒い冬が過ぎ春爛漫な季節を元気に過ごしましょう。次号もお楽しみに。

㊦

〇〇〇〇 ㊦ ㊦ ㊦ ㊦